

2010-01
授業科目名/Subject
日本社会

学科区分/Department	学年/Year	形態/Term	単位/Credits	カリキュラム Curriculum	クラス/担当者 Class/Instructor
国際関係学科 国際文化学科 国際交流学科 国際ビジネス情報 学科	1	半期	4	新旧	服部 慶巨

■ **授業概要 / Outline**

- 授業のテーマ/Overall Theme for Course
日本(人)の人間関係の特徴を理解する(セメスター開講)
- 授業のねらい/Goal
「国際社会」を語る時、その前提として自民族(自文化)およびその仕組みを理解することが必要となる。そこで、「日本人とは何か?」という点からアプローチを始め、「日本社会の特徴」を理解していくのが、本講義のねらいである。
- 授業の方法/Content
日本人および日本社会を理解するための概念・理論・キーワードを紹介し、海外から日本(人)がどのように理解(誤解)されているのかという視点もふまえて講義する。参考書やプリント、視聴覚資料(CDやDVDなど)を用い、理解の助けとする。様々なメディアを通じて得られる情報を、随時紹介する。

■ **授業計画 / Teaching Plan**

- 第1回 シラバス授業(講義の方針、展開方法、基礎概念、目標などの確認)
- 第2回 日本(人)について学ぶ必要性(1) 状況(情況)的影響
- 第3回 日本(人)について学ぶ必要性(2) 文化変容(1)
- 第4回 日本(人)について学ぶ必要性(3) 文化変容(2)
- 第5回 日本(人)的「愛」(1) 意思性と自然性の比較
- 第6回 日本(人)的「愛」(2) 慈悲
- 第7回 日本(人)的「和合」(1) 他人志向性
- 第8回 日本(人)的「和合」(2) 「少年ジャンプ」の原則
- 第9回 日本(人)的「共感性」(1) 共悲
- 第10回 日本(人)的「共感性」(2) 現代的な問題点
- 第11回 日本(人)的「仲間意識」(1) 特徴(1)
- 第12回 日本(人)的「仲間意識」(2) 特徴(2)
- 第13回 日本(人)的「仲間意識」(3) 相互依存性理論
- 第14回 日本(人)的「仲間意識」(4) 浪花節的人間関係
- 第15回 日本(人)について学ぶ必要性(4) 日本人の発想
- 第16回 日本(人)について学ぶ必要性(5) 日本人の表現
- 第17回 日本(人)的コミュニケーション(1) 概説(コミュニケーションとは何か?)
- 第18回 日本(人)的コミュニケーション(2) (全人類に共通な)構造
- 第19回 日本(人)的コミュニケーション(3) 特徴
- 第20回 日本(人)的コミュニケーション(4) 親密性
- 第21回 日本(人)的コミュニケーション(5) 多義性
- 第22回 日本(人)的コミュニケーション(extra)
映画「いつか どこかで」(小田和正監督作品)の鑑賞・考察(前編)
- 第23回 日本(人)的コミュニケーション(extra)
映画「いつか どこかで」(小田和正監督作品)の鑑賞・考察(中編)
- 第24回 日本(人)的コミュニケーション(extra)
映画「いつか どこかで」(小田和正監督作品)の鑑賞・考察(後編)

- 第25回 日本人的「私」(1) “わたかくし”
- 第26回 日本人的「私」(2) 自我・主我・他我
- 第27回 日本人的「私」(3) 70～80年代のニュー・ミュージックに見る「私」(もしくは“わたかくし”)
- 第28回 特別解説(前半)
- 第29回 特別解説(後半)
- 第30回 まとめ

■ 教材 / Teaching Materials

- 教科書/Textbooks

著者名/Authors	服部 慶巨
書名/Title of books	補強版ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学
出版社/Publishers	人間の科学社
ISBN	ISBN4822602389
備考/Notes	

- 必携参考書/Required reference books

プリント配布 / Handouts

- 推薦参考書/Recommended reference books

開講時に指示する / Announced during the first class meeting

■ 履修条件 / Prerequisites

単一的(主観的)な視点ではなく、客観的な分析・発言に関心のある学生の参加を希望する。
 なお、講義の展開方法の関係で、留学生はこの講座ではなく通年開講されている講座の履修を勧める(もちろん、この講座を履修しても可)。

■ 成績評価 / Evaluation

終講試験(70%)、受講態度(20%)、レポート類(10%)で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則(公欠や就職活動による欠席などは申し出ること)。

■ 準備学習の内容・その他 / Preparation and Others

特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)してから次の講義に臨んでほしいと思う。

■ 連絡先 / Contact Information

服部 慶巨

- オフィスアワー / 質問・相談は、講義の前後またはEメールで受け付けます。